

日吉大社の神猿さん えとせとら

其の一 京の都を守る神猿

延暦13年(794)、都が平安京に遷都されました。このとき、京都の東北の鬼門に比叡山があり、鬼門に山があるのは地相が悪いと反対の声が上がりました。しかし、鬼門である比叡山はすでに日吉大社と延暦寺があり、日吉の大神によつて守られていることからこの問題は解決し、京都が都に選ばれました。



▲京都御所の鬼門にあたる猿が辻にある、魔除けの神猿

其の二 山王七猿の和歌



「七猿歌」は天禄4年(973)、第18代座主の元三(慈恵)大師が日吉山王権現に願文を捧げられたとき、権現の使いである猿に因んで「さる」の言葉をおこいで作られた7種の歌の処世訓です。天台教学の要諦である【諸法実相】、「三諦円融」を内蔵した御歌といわれ、「宇宙の道理の相」を心を鎮めて観得することを念じて詠みこまれたものといえるでしょう。

一、つらつらと うき世の中を思うには
まじらざるこそまさるなりけれ

二、見聞かても いわでもかなわざるものを
うき世の中にまじるならいほ

三、つれもなく いとわざるこそうかりけれ
定めなき世を夢と見ながら

四、何事も 見ればこそげにむつかしや
見ざるにまさることはあらじな

五、きけばこそ 望みもおこはらもたて
聞かざるぞげにまさるなりけれ

六、こころには なにわのこを思ふとも
人のあしきはいわざるぞよき

七、見ず聞かず いわゆる三つのさるよりも
思わざるこそまさるなりけれ

其の三 屋敷の守りの神猿さん

京都御所だけでなく、武士も城や屋敷を建てるにあたり、建物の鬼門に神猿をおまじりしました。現在も旧小笠原邸やオーストラリア大使館(日峰須賀野洋館)に残されています。



▲旧小笠原伯爵邸の陶板(東京都新宿区)

其の四 日吉大社の神猿の伝説あれこれ

その一
文永元年(1264)、延暦寺が神輿を繰り出して強訴(武装して朝廷に訴え出ること)に及ぶ際、僧兵が西本宮楼門東側の回廊に松明を持って登つたところ、大きな猿9匹が出てきてその松明を取り上げた、と延暦寺の公式記録「天台座主記」は伝えています。

その二
天皇が病にかかると神猿も同じ病にかかるといわれ、江戸時代初期、後西天皇が抱瘡になったとき、神猿も抱瘡になり、天皇の身代わりになつて死んだという話が伝えられています。

その三(絵馬)
円山応挙の高弟、長沢芦雪が描いた親子(母子)の「猿図」の絵馬。寛政4年(1792)に日吉大社へ奉納されましたが、絵具の剥落が著しく、平成27年、成安造形大学に復元模写をお願いし、奉納当時の優美で絢爛な姿を再現して頂きました。



日吉大社と神猿

「見ず聞かざる言わざる」
三つのさるよりも
思わざるこそ
まさるなりけり



行事

今に伝わる
猿楽(申楽)・能・狂言

明治になるまで、能と狂言を合わせて「猿楽(申楽)」と呼ばれていました。室町時代、近江猿楽の山階(やましな)・下坂・比叡の三座が猿楽を奉納していました。現在でも年に2回、能と狂言の奉納がなされています。



大戸開神事にて
元旦 午前5時～



講員大祭にて
11月第2土曜日

山王総本宮 日吉大社

〒520-0113 滋賀県大津市坂本5-1-1
TEL: 077-578-0009 FAX: 077-578-0134 <http://hiyoshitaisha.jp/>

「見ざる、言わざる、聞かざる」は日光東照宮・神厩舎にある彫刻が有名ですが、この三猿の話はもともと、比叡山中興の祖と言われている良源の処世術から生まれたものです。他人のいやなこと、不安なことに對して見ざる聞かざる言わざるが最も大切ですが、さらに、それ以上に、いかり(忿(ふん))、うらみ(恨(こん))、ごまかし(覆(ふん))、なやみ・なやませ(く)、なやみ・なやませること【惱(のう)】、ねたみ【嫉(しつ)】、ものおしみ【慳(けん)】、だますこと【誑(おう)】、へつらい【諂(てん)】、傷付けること【害(がい)】、おごり【驕(きょう)】といった悪い心を持たない、「思わざる」ことが最も大切であると良源は論じています。

神猿さん 散策ガイド

日吉大社と 神猿さん



神社参拝の心得

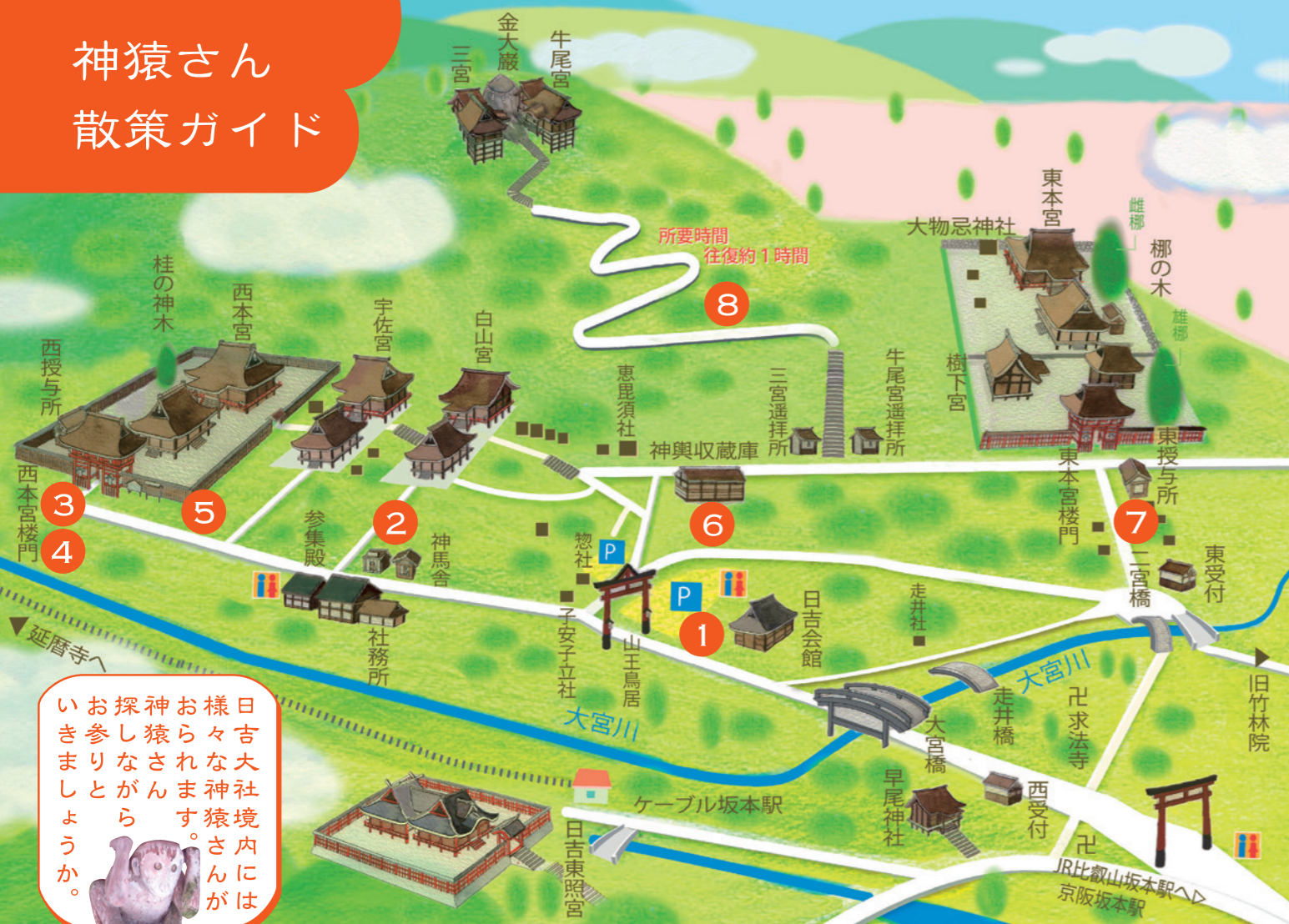
- 神社では何をお祈りしたらいいのですか？
神社では古来より天下泰平・五穀豊穰といった我が国全体の安寧を祈って参りました。国なくしては、個々の平安はございません。まず我が国の安寧を祈念してください。
- 自分のお願いをしたい場合は？
神様は清く明るく正直な人が大好きです。神様から好かれる自分であるかどうかをご神前で省みることが大切です。その上でご自身のお願い事を祈願してください。

神猿さんは魔除けの象徴

そもそも猿は全国に生息しておりますが、何故か古来より日吉といえは猿といわれ、いつの頃から魔除けの象徴として大切に扱われるようになりました。「まさる」は「魔が去る」「勝る」に通じ、大変縁起のよいお猿さんです。

全国3,800社の分霊社と神猿

全国には「日吉神社」「日枝神社」また「山王神社」とよばれる日吉大社の神様の御霊(みたま)をお分けした「分霊社」が約3,800社ございます。それらは方除の神様として、武士がお城や屋敷を建てるにあたり分霊されました。また「山王」とは日吉の神様の別名で、天台宗・比叡山延暦寺の守護神としての性格を意味します。それを「山王信仰」といい、天台宗のお寺の広がりと共に日吉の神様がまつられました。こうして全国に分霊社が増えるに伴い、「日吉さんといえはお猿さん」といわれるほど、魔除けの神猿さんも広く知れ渡りました。



日吉大社境内には、お猿さんたちが探されません。お猿さんたちが参ります。お猿さんたちが参ります。お猿さんたちが参ります。

1 猿塚(さるづか)

山王鳥居の立つ「総合の坂」の参道脇に、「猿塚」と呼ばれる大きな石組がございます。これは古墳の石室の蓋が露出したもので、境内には約70基もの古墳が確認されており、「日吉古墳群」として遺跡に指定されています。出土品から6世紀中頃から後半と推定されます。この古墳の穴は唐崎(日吉大社ゆかりの湖岸)まで通じていることや神様のお使いの神猿さんが年老いて自身の死期を悟ったときに、自ら猿塚の中へ入っていくという伝説がございます。



2 神猿舎(まさるしゃ)

猿は古くから境内で飼われており、既に室町時代の記録にも登場します。江戸時代の絵図等には「猿飼所」「猿厩」が記されています。『日吉山王権現知新記』の記録では、神猿さんの食費として「一石(いっこく)」(＝大人一人が一年に食べる米の量)の予算(俵禄??)が当てられています。小さな体でも、一人前のお給料を貰っていたんですね。



3 西本宮楼門神猿

西本宮の楼門の軒下四隅には、それぞれ違ったポーズの神猿さんがお参りに訪れる方々を見守っています。



4 西本宮楼門臺股(かえるまた)

「臺股」と呼ばれる楼門二階部分の正面にも3匹の神猿さんが、松の木の上で遊ぶように楽しげな装飾が施されています。



5 猿柿

「マメガキ」という渋柿で、神猿さんが好んで食べることから、いつの頃からか「猿柿」と呼ばれるようになりました。実際に比叡山からお猿さんが降りてきて、柿の実を美味しく食べてます。



6 樹下宮 神輿(じゅげぐう みこし) 重要文化財

日吉大社にある7基のお神輿のうち、「樹下宮」のお神輿には、松の上で楽しく遊ぶ神猿さんの装飾が施されています。勇壮・荘厳なお神輿に神猿さんを描くところに、神猿さんを敬う(親しむ)古人の心が伺えます。



7 猿の霊石

東本宮参道の脇に大きな霊石がございます。正面から見た凹凸(おうとつ)が、しゃがみこむお猿さんの形にそっくりなので、「猿の霊石」と呼ばれています。



8 猿の馬場(ばんば)

奥宮への参道の名前です。

9 「日吉山王垂迹神曼荼羅」の神猿(非公認)

日吉大社の神様を描いた江戸時代の掛け軸が残されており、そこには3匹の神猿さんが描かれています。(右写真)

